

主催：みなみらいプロジェクト



遊具を使って『遊び方・運動の仕方』をそれぞれ考えるワークショップ



アート溢れ、色々な発想が尊重される場

2017年、天昌堂に残されていたモノを素材として、利用者の自由な発想を引き出せるように、使い方を固定せずにピクトグラムから想像しながら工夫してもらうという狙いのもと、アーティストと遊具を開発した。しかし、子どもは自由に遊べるが、大人はなかなかきっかけがないと遊ばない状況。そこで、2018年は遊具を活用した遊び方・運動の仕方を開発。水と土の芸術祭でアート作品としても一般公開し広く周知。開発した遊び方をアーカイブ（動画撮影）した。講師として、アーティストの菊池宏子氏、大工の林敬庸氏、新潟大学医学部の篠田邦彦氏（元教授）、菖蒲川由郷氏（教授）を迎え、講座・ワークショップを行った。ワークショップでは、参加者の方に遊具を使って『遊び方・運動の仕方』をそれぞれ考えていただいた。自由な発想を引き出すワークショップはとても意義あることであった。現代アートを用いた健康・健全なまち

づくりの実証をすることで、アートの可能性を拡げることとなる。また、参加した市民の創造性を拡げ、地域の課題解決を自ら行う人材を育成していく。子育て世代のリーダー的存在の女性や、コミュニティダンスを今後展開していく女性など、これからの地域を自らけん引していく方々と一緒に考えることができ、天昌堂だけでなく地域全体への効果も今後期待される。遊びにも幅があり、楽しそうにブランコに乗っている人（子どもや親子など）をみているだけで心が健康になるなどの効果があることも発見となった。「それぞれの遊具の名前が面白い。懐かしい名前がいっぱいで、笑えちゃう」「アーカイブスペースがとても面白い。お茶の間だけでなく、遊具や、アーカイブなど、多様でとても良いと思う」など感想をいただいた。

- 7月14日(土)～10月8日(月・祝) 作品公開 (天昌堂)
- 7月21日(土)、22日(日) ワークショップ (天昌堂)